図書ニュース

大阪府立北野高等学校図書館
第４号　2018.9.28 発行

～洋書の世界へようこそ～

北野高校には洋書（ここでは英語で書かれた本を指します）がたくさんあります。そして昨年度からは多読用の洋書もたくさん入るようになりました。１年生の OC の授業で多読をやっている（２・３年生はやっていた）と思いますが、多読は英語力向上に間違いなく効果があります（私が多読の効果を話している動画を OC の授業で皆さん見たと思います）。多読で英語力を伸ばしたい人はとりあえず図書館の多読用洋書を 100 冊読んでみてください。そのあたりから、「あれ？　読めるようになっている」という感覚が出てくると思います。今回はそういった多読用洋書ではなく、もう少し分厚い読み応えのある洋書を紹介したいと思います（なお、書名の後の（ ）内の数字は本校の図書館にある番号を示しています）。

さて、どういった洋書から読めばいいか。いきなりストーリーも知らない難しい本を読んでも挫折するだけです。洋書で挫折する一番の原因は分からない単語が多すぎること。いちいち辞書を引いていたら面白くないですもんね。なのでまずは、“日本語で読んだことがある”本（特に物語）の洋書を選ぶのが良いでしょう。理由は単純で、“内容（ストーリー）を知っているので単語が分からなくても読み進めることができる”からです。そういう点でおすすめなのは“ハリーポッターシリーズ”です。多くの人が日本語版を読んだことがあるのではないでしょうか。ストーリーを知っているから単語が分からなくてもどんどんページをめくることができます。ハリーポッターは分厚いですから、１冊でも読みきることができれば自分の自信になると思います。図書館には日本語版（933/R4/1~7-2 まで）と英語版（837/R2/1~7 まで）の両方そろっていますので、ぜひ長期休み等に挑戦してみてください（個人的には「ハリーポッターとアズカバンの囚人」が一番好きです）。

ここからは図書館にある洋書で個人的におすすめのものを紹介します。

① Kazuo Ishiguro *Never Let Me Go*　（カズオイシグロ「私を離さないで」）

英語版(837/I7/1)　日本語版(933/I2/3)

昨年度ノーベル文学賞を獲得したカズオイシグロの作品。たまたま本屋で英語版（原書）を購入した私はこの作品にどっぷりはまり、原書を読んだ後、日本語版を読み、舞台［多部未華子、木村文乃が主演という豪華なキャストだった］を鑑賞し、ドラマ［綾瀬はるか、水

川あさみ、三浦春馬が主演だった］を全話見るという徹底ぶりでした。それくらい大好きな作品。内容を書くとまだ読んでいない人が全く面白くなくなるので詳しく書きませんけれども、英語版で少し分からないまま読んでいくほうが、最後のクライマックスを迎えた時の衝撃が大きいのでいいのではと思います。図書館にあるカズオイシグロの洋書はこれだけですが、他の作品も全て面白いので、日本語版でもとりあえず読むことを勧めます（一番有名なのは「日の名残り」(933/I2/2)、最新作は「忘れられた巨人」(933/I25/)）。

また、彼がノーベル賞授賞の際に行った晩餐会スピーチ(Banquet Speech)もぜひ聞いてみてください。４分半ほどしかないですし、非常に聞きやすい英語です（NHK ラジオの「高校生から始める現代英語　８月号」で取り上げられていました）。暗唱する価値があるくらい深い、気品あるスピーチです（QR コードを載せていますのでアクセスしてみましょう）。

② Angela Duckworth　*Grit: The Power of Passion and Perseverance*　(837/DU)

校長先生が始業式で Grit を紹介されていましたが皆さん覚えていますか？　Grit は最近注目されている心理学の研究分野の１つで、この本は Grit 研究の第一人者によって書かれた本です。Angela さん曰く、”Grit is passion and perseverance for very long-term goals”であり、talent（才能）はもちろん大事ではあるが、それ以上に人生で何を成し遂げることができるかは“その人に Grit があるかどうか”に大きく影響されるということです。本書ではそのことを豊富な実験・調査データを基に実証し、さらにその Grit を持つためには何が必要かということも述べています。こう聞くと専門用語がいっぱい出てきて難しい本では？と思うのですが、本書は一般の読者向けに書かれたものであり、高度な内容が平易な言葉で表現されているので非常に読みやすい本になっています。ついつい才能がないと愚痴をこぼしがちですが、この本を読むと“やっぱりあきらめずにやることが大切なんだ”と改めて思います。ちなみにこの本の日本語版「やり抜く力」(159/D4/1)も図書館にあります。日本語版を読んで英語版に行ってもよし、英語版の興味がある章だけ読んでもよし。ぜひ一度手にとってみてください。

著者の Angela Duckworth さんですが、TED Talk でも Grit についてプレゼンをしています。６分少しの動画で彼女の話す英語は非常に聞き取りやすいので、高校生でも十分理解できます（昨年３年生の授業でこの動画を見せました）。リスニングの練習にも良いかと思います（スクリプトも見ることができるので）。こちらも QR コードを載せていますからぜひアクセスしてください。

③ N. H. Kleinbaum　*Dead Poets Society*（近日入荷予定）

ロビン・ウィリアムズ主演の映画（邦題「今を生きる」）のノベライズ本。大学生の時に授業でこの映画を見たのですが、素晴らしい映画で、本屋で原書が売っているのを見て思わず購入しました。そこから何度も何度も読んでいるお気に入りの一冊です。物語は全寮制の学校（高校）ウェルトン・アカデミーに同校 OB の英語教師ジョン・キーティング[映画ではロビン・ウィリアムズがこの役でした]が赴任してくるところから始まります。学校の厳格な規則、良い大学に入らなければいけないという重圧、親からの期待。。。様々なものに縛られている生徒たちはキーティングの風変りな授業に最初はとまどうものの、次第に行動力を刺激され、自由な発想を持ち、自分らしく生きていく道を見つけていくのですが・・・

高校生の時にぜひ読んでほしい一冊です。感じる部分がかなりあると思います。邦題の「今を生きる」はジョン・キーティングが発したラテン語”Carpe Diem”(英語で言うと”Seize the day”)から来ています。“今この瞬間を自分らしく精一杯生きているか？”私はそう問われているように思います。原書はあまり難しい単語もなく読みやすいです（どこかのクラスの学級文庫にありました）。せっかくですから、ぜひ原書を読むだけでなく映画も見てください。

④ Michael Gill　*How Starbucks Saved My Life* (837/G1/1)

生まれながらにしてエリートで大手の広告代理店で働いていた男が 60 歳にして突然会社を解雇され、偶然入ったスターバックスでアルバイトを始めます。今までに自分が出会わなかった人たちと出会い、スターバックスでの仕事を通して働くことの大切さに気付いていく。。。一見フィクションのサクセスストーリーかと思うのですが、実はすべて実話のノンフィクションです。何のために働くのかを考えさせてくれます。それと同時にこの本を読むとスターバックスがいかにこだわってコーヒーとサービスを提供しているかというのが分かります。（スターバックスいいなぁと思うのですが、値段が高いので私はいつも結局他のコーヒーショップに行ってしまう…）ノンフィクションながらストーリー仕立てで英語版であっても読みやすい１冊。

⑤ Mitch Albom　*Tuesdays with Morrie* (837/A6/1)

こちらもノンフィクション。2000 年にニューヨークタイムズによるノンフィクションベストセラーの１つに選ばれた本。著者は人気のスポーツ・コラムニストですが、ある時、大学時代の恩師であるモリー・シュワルツ先生を偶然テレビで見かけます。先生は ALS（筋萎縮性側索硬化症）という病気に冒されていて、余命幾ばくもない状態でした。著者は先生が亡くなるまで毎週火曜日先生の自宅を訪れ、愛／仕事／社会／家族／老い／死など様々な問題

を先生と語り合います。この本はその記録です。私自身、今年の５月に中学校の恩師が癌で亡くなりました。８年ほどお会いしてなかったのですが、亡くなる前になぜ会いに行かなかったのだろうと後悔しました。話したいことはたくさんあったのに。

高校生には少し難しいテーマもあるかもしれませんが、生きる意味を考える上で読んでもよい一冊ではないでしょうか。使われている英語も難しいものはなく、高校生でも十分に読み切れます。邦訳も書店に行けばありますし、映画化もされています。そちらから読んだり見たりしてもいいですね。

⑥ Malala Yousafzai　*I AM MALALA*　（マララ・ユスフザイ「私はマララ」）

英語版(837/Y2/1)　日本語版(936/Y1/1)

2014 年にノーベル平和賞を受賞したマララさんの手記。どの教科書にも載っているくらいの有名人なので、皆さんも彼女の功績は知っていると思います。しかし、彼女のバックグランドにある部分は知らない人が多いのではないでしょうか？　この本を読めば、彼女がどういう家に生まれて、どういう子供時代を送り、なぜ教育の、特に女性の教育の重要性を訴えるようになったのかというような今の彼女につながる部分が見えてきます。この本の中には彼女の写真と共に 2012 年 10 月 9 日、彼女がタリバンの兵士に撃たれた時のバス車内の写真も載っています。世界ではこういったことが起こっている。その事実をきちんと知り、私たちに何ができるかを考えていかなくてはいけません。この本は分厚いので、英語版を読むのは非常に気力が要りますが、心意気のある人はぜひ挑戦してください。もちろん日本語版を読んでから読むのもありですね。

この手記も読んでほしいですが､それ以上に 2013 年に彼女が国連本部で行ったスピーチは必ず聞いてほしいものです。当時 16 歳。私は初めて聞いたとき、16 歳の子がこんなにも人の心を揺さぶるスピーチをすることができるのかと衝撃を受けました。スピーチ動画にリンクする QR コードを載せましたので、スピーチを聞いて、大いに刺激を受けてください。スクリプトはネットで探せばいくらでも手に入ります。

以上、数は少ないですが、おすすめの洋書を紹介させていただきました。ぜひこの中の本でなくても 1 冊読んでみてください。英語のトレーニングのためだけで洋書を読むのはもったいない！　日本語の本と同様、読書を通じて様々な考えに触れ視野を広げてほしいと思います。